



第57回糖尿病学の進歩 ランチョンセミナー9

『糖尿病性腎臓病の最新TOPICS』

2023年2月17日(金)12:30～13:20 第9会場 東京国際フォーラム 5F (G510)

座長

熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学講座

教授

荒木 栄一 先生

演者

社会医療法人 誠光会 淡海医療センター

病院長

古家 大祐 先生

※整理券配布はございません。先着順でのご入場となります。
※現地開催および、ライブ配信をおこないます。
詳しくは、第57回糖尿病学の進歩ホームページをご参照ください。
<https://site.convention.co.jp/57shimpo/>



第57回糖尿病学の進歩 ランチョンセミナー9 『糖尿病性腎臓病の最新TOPICS』

社会医療法人 誠光会 淡海医療センター 病院長
金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学
金沢医科大学 先制分子食料科学

古家 大祐 先生

糖尿病性腎臓病の早期診断と治療経過からの重症度を把握するには、定期的な尿アルブミンの定量 (urinary albumin to creatinine ratio; ACR)とGFRの把握が重要である。特に、eGFRcreは日常生活強度あるいは食事内容によって変動することから、eGFRcysが望ましい。重症度のリスクは、年次的なACR増加およびeGFR年間低下率 $3\text{-}5\text{ml/分}/1.73\text{m}^2$ 以上にて判定できる。ADA/EASDコンセンサスレポート、KDIGOガイドライン2022、日本糖尿病学会の2型糖尿病の薬物治療アルゴリズムにおいて、SGLT2阻害薬、GLP-1RAの糖尿病性腎臓病に対する有効性が支持されている。本セミナーでは、糖尿病性腎臓病の診断と治療の最新TOPICSを議論したい。

試験紙でアルブミン/クレアチニン比。
随時尿+試験紙で手軽で迅速な検査を。



尿中アルブミン・クレアチニン検査用試薬
オーションスクリーン
マイクロアルブミン/クレアチニン

測定項目：Alb、Cre、Alb/Cre比

- ・1枚ずつ個包装で無駄がない
- ・機器に対応。より正確な判定が可能

— アークレイからのお知らせ —

LINE公式アカウント「検査のアーレイ (医療従事者用)」

セミナーのご案内や友だち限定のコンテンツなどを配信しています。
アーレイから発行している情報誌などの情報も定期的にご案内しています。

友だち追加は
こちらから

